



# 東灘 北川レポート



<http://www.e-album.co.jp/kitagawa/>  
平成16年夏号 Vol.5

神戸市議会議員  
北川みちお

## ◆検 証◆

### 公明党の実績

#### 前進した主なマニフェスト

##### ◆保育所受入れ拡充

受け入れ児童数を3年間で15万人拡大。利用時間を選べる特定保育事業の対象年齢を就学前まで拡充。児童虐待防止対策も強化

##### ◆スクールカウンセラー

不登校生徒の減少に効果を挙げているスクールカウンセラーの配置校が、04年度には前年度比1500校増の8500校に拡大

##### ◆小児救急電話相談

夜間や休日にも小児科医が電話で相談に応じる「小児救急電話相談」が、各都道府県で順次スタートへ

##### ◆奨学金制度

育英奨学金制度を大幅に拡充。入学資金用奨学金の貸与条件を緩和、海外留学希望者を対象にした制度も創設

##### ◆児童手当

4月から児童手当の支給対象者が「小学校入学前」から「小学3年生修了まで」拡大されました

##### ◆日本版デュアルシステム

フリーターの増加防止へ、企業実習と教育訓練を一体で行う新システムなどを導入。  
新年度は4万人を対象に

# 北川みちお 活動日誌



## ◎医療と教育を考えるシンポジウム

2004/4/25 (日)

グランキューブ大阪で「医療と教育を考える」シンポジウムがありました。小児の脳死、移植の問題や大学病院の医局制度の問題提起がありました。医師を育ててきた立場から、東灘区在住の大阪市立大学病院院長、前神戸市立中央市民病院 循環器内科部長の吉川純一先生の以下のお話しはたいへん説得力がありました。

- ①患者にもっとも正しい治療法はひとつしかない
- ②勉強がいやだったら医師は辞めなさい
- ③患者に優しく接する事ができない人は、臨床医をやめてください
- ④教育に関心をもてない人は大学を去るべきである

## ◎東灘文化協会花の会

2004/5/9 (日)

平生記念館で東灘文化協会の花の会がありました。オカリナ奏者の小林達夫さんが見事な演奏を披露されました。昨年5月イタリアでオカリナ生誕150年記念祭に出演され絶賛をあびたそうです。オカリナも大小によって音色に違いがあり、素朴で、奥が深くイタリア生れなのに日本の曲に合い、心にしみ入りました。オカリナとはイタリア語で「小さなガチョウ」という意味だそうです。





## ◎神戸市難病団体連絡協議会

2004/5/30 (日)

難病連の会に出席しました。神経疾患、循環器、消化器、自己免疫疾患など多岐にわたる患者の会が一同に集まっておられるので、要望も多岐にわたっています。ふだんはそれぞれ個別に活動しておられるようなので、ひとつひとつの会の個別に参加して要望をお聞きしたいとの思いになりました。



## ◎兵庫韓国商工会議所創立40周年

2004/6/4 (金)

兵庫韓国商工会議所創立40周年記念セレモニーがあり、野球解説者の金村義明氏が講演をされました。報徳から近鉄、中日、西武とわたり歩いた後、野球解説者になるまでの苦労された体験をお聞きしました。近鉄ファンの私は彼の近鉄時代の活躍はよく知っておりますが、現役引退後、野球解説者になるまでの努力には敬服いたしました。「在日魂」という本にも書いておられます。

## ◎IBD講演会

2004/6/6 (日)

IBDとは炎症性腸疾患のことで、クローン病と潰瘍性大腸炎をさします。このたび、患者さん達がJAPANIBDというNPOを設立され、第1回目の医療講演会がアルカイクホールで開催されました。原因不明の自己免疫疾患とされており、その治療法もまちまちのようです。専門医でクローン外来を担当されている兵庫医大、消化器内科、福田先生の講演や患者さんたちの体験をお聞きしました。若い患者さんが多く、この病気を知らない学校、会社等への啓蒙が必要と感じました。

# 安全で快適に通行できるまちをめざして

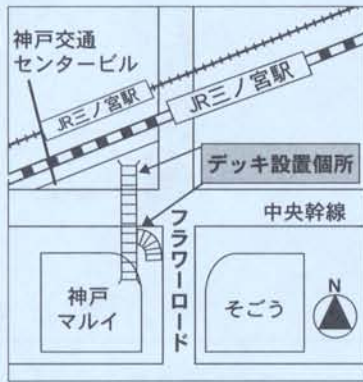
三宮駅前でデッキの設置工事を行います。

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進

市は、お年寄りや障害のある人などだれもが、安心して快適に移動できるまちづくりを進めています。

その一環として、中央区の三宮駅周辺では、地下・地上・デッキ(歩道橋)の三層で歩行者の移動が可能となるような整備を行っています。

17年春ごろの完成に向けて、7月から神戸交通センタービルから南側の商業ビル(神戸マルイ)までつながるデッキ本体の工事に着手します。



## ご理解とご協力を

デッキの架設とあわせて、地上と地下を連絡するエレベーターやエスカレーターも整備します。

工事期間中は、歩道を一部閉鎖したり交通規制を行ったりするなど、ご迷惑をおかけします。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

◆問い合わせは、都市計画総局工務課  
(☎322-5493・FAX322-6097)

# 中学校での昼食

## 【要望】

中学生の子どもがいますが、市立中学校に給食がないことが不思議です。働く主婦も増え、負担が大きいのになぜ、学校給食を実施ししないのですか。

## 【回答】

市立中学校での昼食は、家庭の手作り弁当を基本としています。思春期を迎える中学生にとって、手作り弁当は家族とのコミュニケーションを生み、心の支えとなります。

また、成長期で個人差も大きくなるため、給食よりも、子どもごとに配慮された手作り弁当の方が優れていると考えているからです。しかし、家庭の事情などで、弁当を持参できない生徒のため、15年1月から、栄養価などを考えた弁当の販売を始めました。現在83校中27校で実施しています。実施にあたっては、安全や衛生面に配慮し、校内に冷蔵庫などを設置しています。また、地域の人に弁当の受け渡しをしてもらうなど、地域との連携も深めています。

なお、弁当の販売は、保護者のみなさんと相談し、各学校の事情により、実施するかどうかを決めています。

◆問い合わせは、健康教育課(☎322-5790・FAX322-6140)

